

活動報告書

報告者氏名：呉屋光広 所属：沖縄県立大平特別支援学校高等部久米島高等学校分教室 記録日：H26/2/27

【対象児の情報】

◎学 年：高等部3年 男子A

◎障害名：知的障害

◎障害と困難の内容

- ・身辺は自立しているが、身の回りの保清ができていないことがある。(家庭環境が起因)
- ・高等部卒業後に自立し社会参加していくには、就労に向けて取り組んでいく必要がある。
- ・家庭環境にも課題があり、久米島島内だけでなく沖縄本島での就労も視野にいけなければならない。
- ・知的遅れがあるために、物事の理解が十分出来ないことがあり、用件を忘れてしまうことや、自分の考えを相手に伝えきれないことがある。
- ・喘息、アレルギー性皮膚炎

【活動の目的】

◎当初のねらい

- ・ **iphone** を活用し活動の幅を広げ、自分自身で出来る実感を味わわせることで、卒業後の就労に結びつけていきたい。
- ・ 家庭、学校での読み書き計算の学習での活用を図る。

◎実施期間 平成25年5月より

◎実施者 呉屋光広

◎実施者と対象生徒との関係 教科担任

【活動内容と対象生徒の変化】

実践1「沖縄本島で実施した現場実習での活用」

①ねらい

当面の取り組みとして訓練施設での就労体験学習をスムーズに行い、本人にとっても自信を持つことが出来るようにしたい。そのために、本人の能力的に厳しい部分を「外から」支援できるようにする必要がある。

- ・ 日程の確認（仕事に行く、仕事への気持ちを整える）
- ・ 行動の確認（持ち物の確認、コンビニでの弁当の購入）
- ・ 場所の確認（仕事先への移動、移動時間の確認）

以上の事を、携帯端末を使うことで、本人が一人で確認できることと、迷った場合にはいつでも担任や保護者へ連絡がとれるようになり、担任・保護者は安心して送り出すことが出来、本人は安心して行動できるようになる。

②活用の実際

寄宿舎から訓練施設間で地点を決め、到着や出発時に素早くメールできるアプリ(Quick Call & Mail、いまカエル)を使用した。毎朝、弁当を自身で購入しなくてはならないので、訓練施設の周辺にあるコンビニで購入した弁当をカメラで撮りメールで添付して送付することも行った。弁当については、野菜嫌等の偏食があるため、本人にちゃんとした弁当の購入を促すため行った。本人に余裕がある場合には基本メールを使ってやりとりを行った。今回はバスの乗り換えもなく、バス停留所と対象施設が近くだったので、地図等のアプリは必要ではなかった。職員の同行はしなかったため、iPhoneのGPS機能を活用し、職員が生徒の位置を確認をすることを行った。

③結果

朝の寄宿舎からの出発時のメールの返答に「今日も頑張ろう！」のこちらからのメッセージに元気づけられたようである。教師側から生徒の動向の把握が行えることで、安心して送り出す事が出来、緊急時には電話連絡できる体制は、生徒にとっても心強いようであった。昼食の弁当も食べ応えのあるものを購入できた。

1学期の実習で自信をつけたようで、島を飛び出し、本島での就職を目指したいと希望を持ち始め、2学期も同様に2週間の実習を行い、本島での就職を決意している。



写真1：「バスに乗車しました」を送信

実践2「チャレンジキッズの活動」

①ねらい

特別な教育的ニーズのある子どものための遠隔協働学習の場「チャレンジキッズ」の活動に参加している。インターネット上の守られた環境にある仮想教室でのやり取りによるコミュニケーションの活性化や広がりについて、1996年から実践研究を研究会である。

本分教室では「ゴーヤープロジェクト」を企画し、ゴーヤーの栽培を通して交流及び共同学習を行っている。県外の特別支援学校の生徒とのつながるという体験を通して、相手に対して考えていることを文字にして伝えることが出来るようにする。

伝える手段は、インターネットに設置されたサーバーに掲示板方式で「文字」「写真」「動画」などを使うことが出来るようになってきている。これは、すぐに近くにおいて声で伝えたり表情でニュアンスを伝える事が出来ないため、自ずと、より相手にわかりやすい工夫をしなければならないという課題を与えることになる。また、自分のコメントに対して相手の書いてきたことを確認しながら、相手がどのように理解しているのかを知ることが出来る。これらは、やり取り全てが記録されることもあり、教師側も連携し、生徒たちの交流の様子を確認しながら、最低限必要などところで、お互いに理解できるように支援を行うなどの対応を図っている。

②活用の実際

全国の特別支援学校でゴーヤー栽培を通して共同学習を行っている。iPhoneでゴーヤーの生長の様子を画像撮影し、Webサイトに書き込みを行っている。他の生徒はノートパソコンを使って授業で行っている。A君は放課後等の時間を活用して成長記録をとったり、収穫物のサイズ(重さ、長さ)測定し記録を行っている。

③結果

現在は静止画を撮影し、コメントを記入して報告を行っている。ゴーヤーの栽培を通しての交流及び共同学習だが、地域の特徴のある話題に内容が広がっている。

収穫物は高校の先生方に無料で配布を行っている。自分からなかなか話しかけることができない性格なので、これをきっかけにしてコミュニケーションの輪が広がり、先生方も気楽に話しかけることができるようになってきている。



写真2：ゴーヤーの栽培観察の様子

実践3「家庭生活での利用」

①ねらい

卒業後を意識し家庭生活中で情報端末の活用を模索している。A君は、企業就労を目指していて、自分で働いて携帯を持ちたいと考えている。このことから、iPhoneを実際に学校から帰宅後も持たせて活用を図っている。

②活用の実際

A君の家庭は、父・母・祖父・祖母・兄・本人・妹・妹・弟・弟の10人家族である。家庭的にも厳しい家庭で携帯電話を持つことは厳しい家庭である。今回の研究をきっかけに音楽を聴いたり、久米島の行事等の写

真を撮影したりしている。また、自主的に朝のジョギングに取り組み、iphone で記録をとっている。

③結果

本人は音楽に大変興味がある。iPhone のミュージック機能を活用し、A 君の好きな音楽を蓄積して、休日などの余暇利用に役立っている。また、自ら率先して早朝のジョギングに取り組んでいる。

【活動内容と対象児の変化】

○活動の具体的内容

訓練施設での就労体験学習をスムーズに行い、本人にとっても自信を持つことが出来るようにするために、本人の能力的に厳しい部分を「外から」の支援を行った。

- ・日程の確認（仕事に行く、仕事への気持ちを整える）
- ・行動の確認（持ち物の確認、コンビニでの弁当の購入）
- ・場所の確認（仕事先への移動、移動時間の確認）

以上の事を、携帯端末を使うことで、本人が一人で確認できることと、迷った場合にはいつでも担任や保護者へ連絡がとれるようになり、担任・保護者は安心して送り出すことが出来、本人は安心して行動できるようになる事を期待した。寄宿舍から訓練施設間で地点を決め、到着や出発時に素早くメールできるアプリ (Quick Call & Mail、いまカエル) を使用した。毎朝、昼食の弁当を自身で購入しなくてはならないので、訓練施設の周辺にあるコンビニで購入した弁当をカメラで撮りメールで添付して送付することも行った。弁当については、野菜嫌等の偏食があるため、本人にちゃんとした弁当の購入を促すために行った。本人に余裕がある場合には基本メールを使ってやりとりを行った。職員の同行はしなかったため、緊急時に備えての人的支援体制と iPhone の GPS 機能を使った位置確認をできるように設定したが、使うことはなかった。

○対象児の事後の変化

朝の寄宿舍からの出発時のメールの返答に「今日も頑張ろう！」のこちらからのメッセージに元気づけられたようである。教師側から生徒の動向の把握が行えることで、安心して送り出す事が出来、緊急時には電話連絡できる体制は、生徒にとっても心強いようであった。昼食の弁当も食べ応えのあるものを購入できた。卒業後をなかなかイメージできなかったが、就職したいという意欲が感じられるようになり、本島での就職を考えてきている様子であった。

【報告者の気づきとエビデンス】

前期実習前には、卒業して働く事をなかなかイメージできていなかったが、実習後にはしっかりと見つめ直している様子で、学校の授業に対する姿勢にも積極的な態度が多く見られた。特に作業学習は意欲的に取り組んでいた。

○気づきに関するエビデンス

1 学期の実習後に、2 学期に行われる 2 度目も本島での実習を希望した。両親にも自分の気持ちをしっかり伝え、本島での就職をしたいことを伝える事ができ、2 度目も本島で行い高評価を得ている。

2 回目の実習ではより卒業後に近い形での実習を試みた。グループホームで生活しながら、1 学期同様の場所で就労訓練を行った。普段自宅ですることのない、洗濯や清掃を自主的に行えるようになっていたようである。また、休日には iPhone の地図で CD レンタル店に出かけ、入会手続きを行い自分の好きな CD を借りる事もできている。島を離れての生活は不安であると思うが、自分でできる事の幅の広がりによる自信が、本島での就職を決心する一因になったように感じる。

右の表は実習先が評価したものを、評価段階別の個数を表している。どちらも C 評価がなかったことに、実習先は感心していた。

	A 評価	B 評価	C 評価
1 回目 (1 学期)	1 6	1 0	0
2 回目 (2 学期)	2 0	6	0

表 1：評価段階別の個数

【今後の見通し】

3 月 1 日卒業後は本島(那覇市)にある就労サポートセンターで受け入れが決定。島を離れてグループホームで生活訓練と就労訓練を行いながら、4 月には就労先を開拓し就職の予定である。